

第1回検討会で整理されたポイントと今回の論点（案）

1. 第1回検討会で整理されたポイント

- プログラム構成は、ユニバーサルデザイン 2020 のとりまとめにおける「心のバリアフリー」のポイント*をもとに、まずは、理念やそれに基づく姿勢を身に付けてもらうことが一番重要。知識・スキルの各論はメインパートとしない。(また、上記の理解を促すにも、法律を導入とするのではなく、「共生社会の理解、実現」からスタートすべき。)

*・障害の社会モデル

障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること

・合意的配慮に基づく差別の不実施

障害のある人への差別（不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底する。

・他人を思いやりコミュニケーションを行う力

- 理念の理解をメインパートとするが、「理念や姿勢」「障害への理解」「接し方の習得」を連関させ、三位一体で理解する構成とする。

- 「心のバリアフリー」に向けて有効なプログラムとするには、最低でも 90 分～2 時間が必要。可能であれば、すべての社員に当該プログラムの展開が望まれる。

- 上記を身に付けるために、当事者講師の参加により、コミュニケーションがとれる体験ができることが重要。

- 具体的な意識・態度の変化を促すべき。

- 講師の質を担保するための、講師の育成が必要。

- 理念の理解、行動の変容を評価できる仕組みを構築する。

→ 上記を踏まえ、まずは、広く多くの社員（可能であれば全社員）に展開する 90 分～2 時間の研修プログラム（以下、「基本プログラム」と言う。）の内容を検討し、その後、派生（更に内容を充実させたプログラム）を考える。

2. 今回の論点（案）

論点①：第1回の議論の確認

論点②：基本プログラムが目指す主な「気づき」

論点③：基本プログラムの構造・内容

（上記の「気づき」に向けて有効なプログラムの構造・内容）

論点④：基本プログラムに向けた講師育成の考え方

- ✓ 講師の質の担保に向けた対応
- ✓ 障害当事者講師の育成のあり方